

## 魅力ある県立短期大学づくりに向けた基本的な考え方

- 人材育成を通して鹿児島の地域社会発展に寄与するという県立短期大学の役割を果たしていくためには、これまでも増して地域に根差した県民に身近な大学を目指し、県内高校生の進学先として選んでいただけるよう、社会の要請に応じた教育環境を整備することが必要
- このため、県内高校生が希望する教育内容や、県内企業等が学生に求める能力等を踏まえ、教育内容やその提供方法等の見直しや、大学単体だけではなく、県内企業や他大学等との連携により、学生の学びや進路の選択肢を増やす取組等について検討

## 1 時代の要請に対応した教育内容の更なる充実

- 学生が「創造力」や「課題発見力」をさらに養うことができるようリベラルアーツ教育として提供する科目を充実
- 全学的にアクティブ・ラーニング導入の検討を行い、学習効果が上がると考えられる科目に新たに導入。併せて、汎用的な教室において固定式の机から可動式の机に替えるなど、環境を整備
- 日本語日本文学専攻において、日本語を教える力や、日本語で表現する力を一層向上させることができるようカリキュラムの改正を検討
- 英語英文学専攻において、学生同士のコミュニケーションが取りやすくなるよう、可動式の机を導入した教室において英語の授業を実施するとともに、英語でのプレゼンテーションを学生同士が相互評価できるソフトウェア等を導入。併せて、「聞く」、「話す」を反復して実践できるオンライン英語学習プラットフォームを導入
- 全学生を対象に、生成AIの便利な活用方法や誤った使い方によるリスクを学ぶための講演会を実施
- 教育現場における情報機器を用いた授業に円滑に対応できる教育を行うため、タブレット端末を用いた教育実習の環境を整備
- リカレント教育において、オンライン授業の活用などを推進。加えて、本来の修業年限を超えて履修できる「長期履修制度」や、科目等履修生制度と比較して費用負担が軽減される「聴講生制度」を導入

## 2 学生の確保に向けた取組

- オープンキャンパスにおいて、在学生等が自らの経験を紹介するプレゼンテーションを行うとともに、在学生と高校生が交流する機会を拡充
- 学習内容が伝わるよう学科・専攻の名称の見直しを検討
- 他大学の先行事例を調査し、「総合型選抜」の導入を検討

## 3 企業・大学等との連携や地域社会への一層の貢献

- 県庁職員から県の地域振興策等を学ぶことができる教養科目「県政と鹿児島（仮称）」を新設
- 企業訪問を担当する職員の体制を強化し、企業等との関係を構築。鹿児島産業界の情報を収集し、その活用により就職先の開拓や就職支援を行う
- オンライン上で求人情報やインターンシップの情報を掲載し、オンライン上で学生が詳細な地元企業の求人情報を把握できる就職支援システムを導入
- 単位互換制度は年間数件程度と利用が進んでいないため、実施主体に対してオンライン講義の導入を提案
- 過去の編入希望者の学習状況や教員の指導状況を踏まえ、他大学への編入を希望する学生への情報提供や指導を充実
- 公開講座や金曜講演会等について、受講者の関心等を踏まえたテーマ設定を行うとともに、受講者の利便性の良い場所で開催
- 栄養士就業者の管理栄養士国家試験のための勉強会を、県立短期大学の卒業生以外にも対象を拡大して実施

## 4 独立行政法人化

### <メリット>

- ・ 県策定の中期目標の達成状況を、県設置の評価委員会が評価。県・法人一体となり大学運営を評価し、PDCAサイクルをまわす
- ・ 公立大学法人の理事長の判断で、人員配置や予算執行を行うことが可能となり自主性・自律性が高まる 等

### <デメリット>

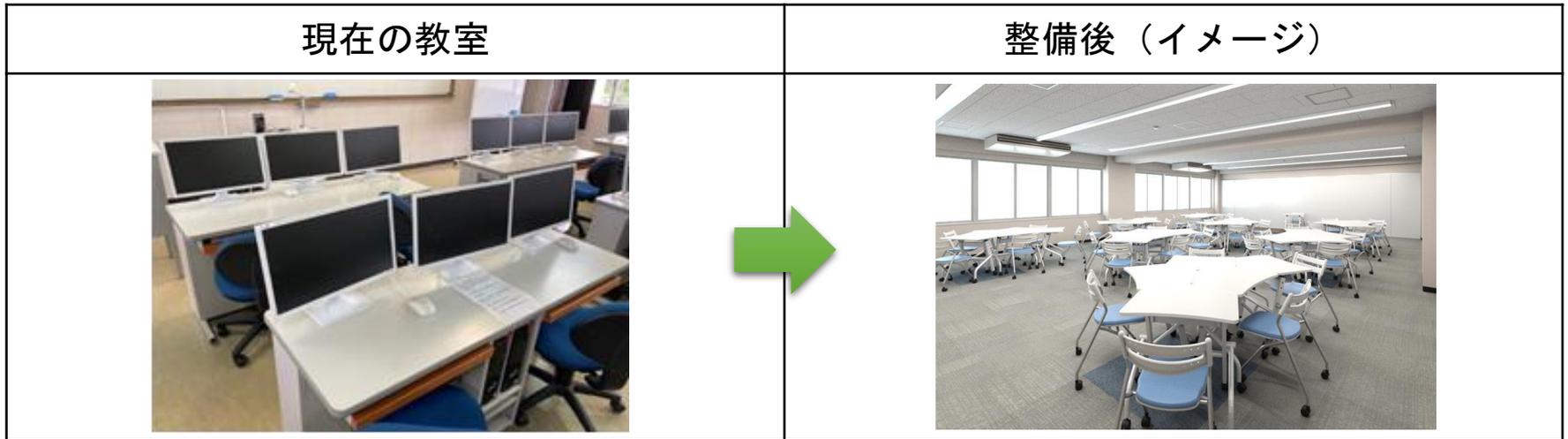
- ・ 新たに中期目標等の作成や、評価委員会の設置に係る事務が発生
- ・ 県においては関係条例及び規則等の改廃、公立大学法人においては新たに諸規程類を整備することが必要 等

# アクティブ・ラーニング中心の教育環境への刷新

➤ 汎用的な教室において、アクティブ・ラーニング中心の教育環境を整備

## <可動式デスク・チェアの導入>

→ 机・椅子を可動式に変更し、学生同士の自由な対話やグループ活動を含む多方向的な授業を実施



## <後方へのホワイトボード設置>

→ 授業の場面に応じて後方も前面として活用し、多方向的でアクティブな学習活動を実現

